

8-4-34 自動運転WG

1. 主な活動の記録

自動運転 WG は、自動運転分野に関する最新動向等を調査し、建設コンサルタントとして共通して把握しておくべき事項を研究するとともに、社会課題解決に向け、建コンとして協調して取り組むべき事項等を明らかにすることを目的に活動を行っている。

具体的には、以降に示す調査研究テーマを設定し、それらの調査・整理を通じ、建コンとして取り組むべき課題等を明らかにすることとしている。また、より理解を深めるために、自動運転の社会実装先進地域の視察勉強会等を適宜実施している。

2. 実績報告

5 回の WG を開催し、関係する技術委員会、情報委員会と兼任する計 12 名の委員により、主に以下の活動を行った。

(1) 調査研究テーマの調査推進

a) 国の政策動向

デジタルライフライン全国総合整備計画における「自動運転サービス支援道」、デジタル社会推進会議（モビリティ WG）における「モビリティ・ロードマップ 2025」、「RoAD to the L4」等の動向について調査した。

b) 車・通信・高精度地図等の動向

自動運転バスに加え、自動運転タクシーや自動配送ロボットの開発状況や動向等について調査した。

c) 道路空間・自動運行補助施設等の動向

国交省における自動運転インフラ検討会の動向に加え、自動物流道路に関する検討状況等について調査した。

d) まちづくり・公共交通との関係

国交省都市局の都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会等での検討動向を踏まえ、自動運転によるまちづくり・公共交通との関係等について調査した。

e) 制度設計の動向

自動運転社会に対応した関係法令の改定、関係交付金・補助制度等の動向について調査した。

f) 地域実装・提供サービスの動向

全国各地で行われている自動運転バスに関する主要な地域実証等の事例を調査・整理した。

g) その他の関連動向

NEXCO の取り組み動向や、関連領域として「空飛ぶクルマ」に加え、自動運転の社会受容性の向上に向けた各種取り組みについて調査した。

(2) 社会実装先進事例の視察

上記 f) の地域実証の動向調査を踏まえ、複数台での遠隔監視型の自動運転バスによる移動サービスの実現を目指し、全国初の中型バスによるレベル 4 営業運行を行っている「ひたち BRT（茨城県日立市）」の視察（体験乗車、運営関係者との意見交換等）を行った。

(3) 今年度活動実績

前年度に続き WG 活動は原則 Web 会議にて行った。

・第 1 回 WG：令和 7 年 4 月 24 日（木）

・第 2 回 WG：令和 7 年 6 月 26 日（木）

・第 3 回 WG：令和 7 年 9 月 25 日（木）

・第 4 回 WG：令和 7 年 11 月 27 日（木）

・第 5 回 WG：令和 8 年 1 月 22 日（木）

視察勉強会は以下の日程で実施した。

・ひたち BRT 視察：令和 8 年 2 月 13 日（金）

3. 次年度の活動について

(1) 調査研究テーマの調査推進

変化の著しい本分野の特性に鑑み、各調査研究テーマ領域を最新情報へ更新を行いつつ、海外動向等にも調査範囲を拡大する。

また、令和 7 年度に実施した視察調査については報告書を作成し、協会内で共有する。

(2) 視察勉強会等の開催

先進事例などの視察勉強会を引き続き行い、地域実装の課題やその解決方法、成功への鍵などを探り、各調査研究テーマのとりまとめにおける補遺とする。

（自動運転WG WG 長 市川 博一）